

# 保育士，幼稚園・小学校教員養成課程 における「器楽・声楽」の指導

——学生の実態調査による 2006 年～2013 年の経年分析——

衣 川 久美子・山 崎 和 子・坂 井 康 子

## Consideration of Instrumental and Singing Training Courses of Infant and Elementary School Education

——An analysis based on students' fact findings from 2006 to 2013——

KINUGAWA Kumiko, YAMASAKI Kazuko and SAKAI Yasuko

**Abstract** : This paper discusses the present state of “Instrumental and Singing” Classes and how teachers made dedications to the classes since 2008. The discussion is based on the paper “Consideration of Piano Teaching in Teacher Training Courses of Infant and Elementary School Education” which summarizes the piano teaching during 2006 and 2007, a period soon after Konan Woman’s University Department of Childhood Development and Education had established. The foremost purpose of this paper is to turn the analysis of students’ data into account of class teaching improvements. Analysis were made on data obtained through questionnaire surveys and investigations on students’ awareness of children’s songs, licenses they plan to acquire, occupation they desire, tendencies of job offer, recruitment examinations, and their employment after graduation. The second purpose is to reconfirm each teacher’s accumulated knowledge to deepen teachers’ mutual understanding of class teaching methods. It helps minimize the disadvantages caused by teacher changing and relocations in the past 7 years. This paper also describes changes of teaching methods by pointing out class improvements in current classes. Improvements are being developed through liaison approach between whole class lessons and group lessons in education of fundamental music ability required in infant and elementary school teachings.

**要旨** : 本論は，甲南女子大学総合子ども学科開設当初 2006 年～2007 年についてまとめた論文「保育士，幼稚園・小学校教諭養成過程におけるピアノ指導について」を土台に，2008 年以後の「器楽・声楽」の授業の取り組みと現状について論じるものである。歴年の入学時アンケート，既知曲や子どもの歌の意識調査，取得予定の免許，卒業後の希望進路，求人傾向・採用試験・就職の実態調査等，入手したデータを分析し今後の学生の指導に役立てたいということが，第一の目的である。第二の目的は，授業が 7 年経過する中で，指導者の移動や交代があったため，これまで重ねてきた指導の工夫をまとめて再確認し，教師間の共通理解を深めることである。また，保育や教育現場に必要な音楽的基礎能力を育てるため，一斉授業とグループレッソンの連携授業でこれまで工夫してきた指導の変化を記述し，現在の改良点を明示する。

## I. はじめに

甲南女子大学総合子ども学科（以下本学科）は 2006 年に発足し、本年で 8 年目を迎える。保育士資格と幼稚園教諭免許、そして 2 年目からは小学校教諭免許も取得できる体制となり、2009 年度に卒業生を輩出して以来 4 期の卒業生を教育・保育現場に送り出している。

本学科の音楽担当教員・講師によって、2008 年に総合子ども学科開設当初の「器楽・声楽」の授業の内容と問題点がまとめられた（坂井他 2008）。「器楽・声楽」は、保育や教育に必要な音楽的基礎能力を育てるための要となる授業として位置づけられている。本稿では、2008 年の論文を土台とし、それ以後の「器楽・声楽」の授業の取り組みと現状について論じる。前稿では、自習力の養成の必要性が課題としてあげられ、また保育・教育現場での音楽的能力についてのニーズや学生の現状把握を今後の課題としてあげた。これを受けて本稿では、2008 年以降の指導の詳細と、継続しておこなっている入学時アンケート、および既知曲や子どもの歌に対する意識調査、取得予定の免許、卒業後の希望進路、求人傾向・採用試験・就職の実態調査等、これまでに入手したデータを分析し、これらの結果を今後の学生の指導に役立てたいと考えている。

以下、II 章では一斉授業とグルーブレッスンの連携によってこれまで工夫してきた指導の内容とその変化を記述し、課題であった自習力の養成への取り組みについて言及する。III 章と IV 章では学生の現状について

各種アンケート結果等を分析し、V 章、VI 章では採用試験・求人や就職の実態についてデータをまとめる。そして現状の取り組みとデータの分析から考察をおこない、改良すべき点について検討する。

## II. 「器楽・声楽 I・II・III」の指導の改良

### 1. 授業および履修者の概要と改良点

表 1 に見る通り必修授業の「器楽・声楽 I・II」は、1 年生後期・2 年生前期連続の 1 年間行われている。履修者は毎年 140 人前後であり、授業回数は各学年 15 回で計 30 回の必修である。ここでは幼児教育・保育に必要な基本的で総合的な音楽能力の伸長をめざす。選択授業の「器楽・声楽 III」は 3 年生前期にあり、授業回数は 15 回で定員 48 名、希望者がエントリー順に登録し受講出来るようになっている。ここでは、「器楽・声楽 I・II」の基礎の上に、進度に応じて演奏力や応用力の更なる伸長を目指す。

「器楽・声楽 I・II・III」では、表 2 に示す通り、すみれ（初心者・初級者）、つばめ（経験者）の習熟度別クラス編成で、授業間ローテーションをして授業を進めている。クラス編成については 2 節で詳しく述べているが、1 年生前期に提示した経験度別課題を、授業開始初日に担当教師全員で聴いて進度審査をし、

表 2 習熟度別クラス編成と授業間ローテーション

担当教員	場所	内容	時間	レベル
専任 2 名	ML 教室	6 グループ一斉授業	45 分	すみれ つばめ
		コード伴奏法   歌唱		
非常勤 6 名	レッスン室	ピアノ 3~4 名の グルーブレッスン	45 分	すみれ つばめ

表 1 「器楽・声楽 I・II・III」の授業と実習の位置

学年	1 年生		2 年生		3 年生		4 年生
器楽・声楽	器楽・声楽 I		器楽・声楽 II		器楽・声楽 III		
受講者数	全員		全員		48 名定員 (4 年生 10 名)		
実習	保育 観察実習		保育実習 I 保育 観察実習	小学校 観察実習 ボランティア 体験	幼稚園教育実 習 小学校教育実 習	介護等体験	保育実習 II 保育実習 III
音楽関連授業	音楽の基礎 (全学科) 音楽鑑賞 A オルガン音楽 実習 I (文・ 人学科)	音楽の基礎 (全学科) 保育内容の研 究 (音楽) 保育の表現技 術 I 音楽鑑賞 B オルガン音楽 実習 II (文・ 人学科)	初等教科 教育法 (音 楽) 50 名定員	保育の表現技 術 II		リトミック	

クラス分けをしている。その際、指導に配慮や時間を要する初心者や初級者については、片寄りのないよう調整をして、1クラス3～4名に配分をしている。また経験者クラスについても同様な配慮で1クラス3～4名に配分し、6名の教師が、それぞれすみれとつばめを3クラスずつ担当している。

一斉授業ではコード伴奏法・歌唱のほか変奏など、時間の許す限り応用力を付ける学習を行い、グループレッスンでは教則本（バイエル教則本・ブルグミュラー25番練習曲・ソナチネアルバムⅠ<sup>1)</sup>・ソナタ<sup>2)</sup>）・リズム曲・弾き歌いの指導を行っている。

2008年から「器楽・声楽Ⅲ」を6回経過した中の改良点は、2012年から定員を3年生36名、4年生10名とし、4年生の希望者も登録すれば受講できるようにしたことである。「器楽・声楽Ⅲ」（表1）は選択授業であるために、登録していながら途中で受講しなくなる可能性があることから、なるべく欠員が出来ないようにするためと、公平な機会提供の意図から2012年から4年生10名の受講枠を設けた。これにより、実習先の情報や採用試験の時期を考えて、3～4年生の適所で実力維持や向上を目指そうとする意志の高い学生が増えてきている。

二つ目の改良点は、2012年より一斉授業で「歌唱」の授業が新たに設定され、各クラスの中でローテーションするようになったことである。一斉授業の1/3（5回）が歌唱の授業である。「弾き歌い」は主にピアノのレッスンの中で行って来たが、これにより「歌唱」面の強化が可能になった。弾き歌いの力の伸長は、「器楽・声楽」の授業の目標であり、今後の成果が期待できる。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育・小学校観察実習、ボランティア・介護等体験、教育実習の時期は表1に見る通りで、今後は、学生から得た現場の情報を教師間で共有し、より適切な指導に生かせると考えている。

また、本学科では、音楽に関して表1の通り、多面的な取り組みをおこなっている。1年入学時からの「音楽の基礎」（音楽理論と合唱）、「音楽鑑賞」、「オルガン音楽実習」（パイプオルガン演奏）が選択授業として設定されており、1年後期から1年間は「器楽・声楽Ⅰ・Ⅱ」というピアノ実技を中心とした必修授業が設定されている。同時期に「保育内容の研究（音楽表現）」「初等教科教育法（音楽）」が必修科目としてあり、加えて「保育の表現技術Ⅰ・Ⅱ」も音楽に関する内容を含んでいる。また、「器楽・声楽Ⅰ・Ⅱ」以降さらに学びたい学生と学ぶ必要がある学生のために

「器楽・声楽Ⅲ」が選択授業として設定されている。またさらに、卒業年度を前にした3年生後期には「リトミック」が選択授業として履修できるようになっている。

このように、教育・保育に必要な豊かな能力を育む機会が多く用意されている中で、「器楽・声楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の位置を捉えておく事は、指導者として大切なことであると考えられる。

## 2. クラス編成のための課題の変更

「器楽・声楽Ⅰ」は1年生の後期から始まるので、前期半年のブランクの間に、宿題を出してピアノを自習しておくことを課している。特に初心者はバイエル教則本60番までは、学校外のレスナーに習いに行っても終わらせておくこと、経験者は自分の最終レベルの曲かそれに近い曲を練習して授業に備えることを義務付けている。それぞれが復習に時間を取られることなく、授業開始時に現在の達成レベルから授業をスタートできるよう奨励している。

ピアノの自習課題は学生の実情を加味しつつ毎年調整して来た。表3に2006年、2009年、2011年、2013年をピックアップして課題の変化を示した。2013年は、それぞれの経験度に応じて、ピアノの未経験者と

表3 「器楽・声楽Ⅰ」クラス分けのためのピアノ自習課題

年	クラス分け課題
2006	バイエル教則本60番までから1曲を自選で弾く ブルグミュラー25番から1曲を自選で弾く ソナチネアルバムⅠから1曲（1楽章）を自選で弾く
2009	バイエル教則本58・60・83・85から1曲を自選で弾く ブルグミュラー25番2・9から1曲を自選で弾く ソナチネアルバムⅠ1・9から1曲（1楽章）を自選で弾く
2011	A バイエル教則本55・59・60・66から1曲を当日指定で弾く B バイエル教則本80・85・96から1曲を当日指定で弾く C ブルグミュラー25番9・15・20から1曲を当日指定で弾く D ソナチネアルバムⅠから1・9・14・15から当日指定で弾く 簡単なリズム曲の初見1曲を当日指定で弾く
2013	A バイエル教則本55・59・60・66から1曲を当日指定で弾く B バイエル教則本80・85・96から1曲を当日指定で弾く C ブルグミュラー25番9・15・20から1曲を当日指定で弾く D ソナチネアルバムⅠ1・9から1曲を当日指定で弾く E ソナチネアルバムⅠのソナタ14・15から1曲を当日指定で弾く 簡単なリズム曲の初見1曲を当日指定で弾く

初心者 (A・B) はバイエル教則本から 3~4 曲, 経験者 (C・D・E) はブルグミュラー 25 番から 3 曲・ソナチネアルバムから 2 曲・ソナタから 2 曲をそれぞれ最低限仕上げておくことを課題とし, 授業初日に, 課題曲を 1 曲弾かせてグループ分けを行った。例年, 学生はどうしても実力以下の曲を弾く傾向があり実力の把握がしにくいいため, 2010 年からは「動きのためのリズム曲集」<sup>3)</sup>中のごく簡単なリズム曲の初見視奏テストを行い, クラス編成の判断材料とした。これが一つ目の改良点である。二つ目の改良点は, 自習に自覚と緊張感を持たせるために, これまで数曲の課題の中から自選演奏していたのを 2012 年からは当日指定にして, 初見視奏とともに進度審査するようにした点である。これにより, 特に 2013 年度生は前年よりも積極的に学ぶ姿勢が高まっている。

### 3. ピアノのグループレッスンと自習力向上のための改良点

個人レッスンにないグループレッスンの効用は, 同じ経験度の者同士で演奏を聴き合い自分の練習の参考にできること, 互いに切磋琢磨が出来ることにある。このグループレッスンの利点を活用して学生の自覚と意欲を啓発しつつ, 自習力を付けることが指導者の大事な役割である。また, ピアノのグループレッスンの指導内容は, 教則本・リズム教材・弾き歌い教材と多岐にわたる。1 人当たり約 10 分の限られた時間の中でいかに適切な指導をするかも指導者の苦心するところである。ここでは, ピアノのグループレッスンで行ってきた教材の調整と改良点を, 教則本, 弾き歌い教材, リズム教材, チェックシート, ノルマの順に述べる。

#### 1) 教則本

グループレッスンで演奏能力を伸ばすには学生に自習力を付ける事が最も大切であることから, 表 5 に見るように, 2008 年には, 特に初心者用に能率的に自習できるバイエル教則本抜粋版の自習プリントを試みに配布した。2009 年には, 1 年生前期半年の自習期間に有効活用できる入門書として, 筆者を含む有志で本格的なバイエルの自習書「なるほど! バイエル 1・2」<sup>4)</sup>を出版し, 参考図書として提供した。これはバイエル学習の大きな改良点で, 「なるほど! バイエル」を使用した学生は確実に自習力を付けている。

「ブルグミュラー 25 番」は演奏技術と共に表現力を付けるために非常に良い教材であるが, バイエルから移行する場合, 曲想が掴みにくい・たくさんの指示記

号に戸惑う・読譜が難しいなどが問題となることが多々あった。そこで「なるほど! バイエル」の続編として, 2012 年に自習書「なるほど! 大人のブルグミュラー 25」<sup>5)</sup>を出版し, 参考図書として提供した。付録に CD をつけ, 練習の参考になるようなゆっくりしたテンポの演奏モデルと, ゆっくりしたテンポでは曲想が捉えにくい曲は指定テンポのモデルも収録している。初心者の場合は, 曲の全体像をつかむために YouTube を参考にしている学生も多く, 課題の模範演奏や録音を依頼される事もあるので, この自習書の活用を望みたいところである。

#### 2) リズム曲

テキスト「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」<sup>6)</sup>に併載されているリズム曲は, 歩く・走る・とぶ・ゆれる・その他の動きのイメージ曲であり, 動きのための活用が難しく, 同時に初心者には難易度の低いリズム曲が必要であった。そこで, 2007 年から指導者間で選曲したプリント教材集を配布していた。2008 年には見直しをして曲を入れ替えたり更に簡易教材を増やすなどして工夫をしたが, バイエル教則本の自習プリントと同様, 学生の必須教材として再考の必要に迫られ, 担当の教師間で選曲編集し, 歩く・走る・跳ぶ・揺れる等のリズム曲を実用的で弾きやすく編曲した「動きのためのリズム曲集」を 2010 年に学内出版した。この改良により, 子どもに豊かな動きを促すための実践曲というイメージが学生に良く理解されるようになった。2012 年には, 初版本を使用した経験をもとに, さらに簡易で実用性の高いリズム曲に改編し, 初心者や, 初級者が弾きやすく現場で活用できる第 2 版の「動きのためのリズム曲集」を出版した。歩く・走る・跳ぶ・揺れるの各セクションの冒頭に演奏に役立つ解説を添えて, 色々な動きのイメージを持って弾くよう奨励している。この 2 度の改良により, 芸術性を合わせ持つ“動きのイメージ曲”と“動きのためのリズム曲”の差異がはっきりしたことで, 学生のリズムの理解が明確になった。また指導側も学生のニーズに応じた取舍選択が可能になった。

表 1 に見る学生の実習から現場の情報が得られるので, 今後は実習を念頭に入れたリズム教材の指導の工夫ができると考える。

#### 3) 弾き歌い教材

テキスト「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」はオリジナルの伴奏譜のみで初心者には難しく曲数も少ないため, 初期には「あいさつと生活の歌」, 「季節と行事の歌 (春・夏・秋・冬)」, 「その他」の弾きやすい

表4 教材の改良に伴った出版テキスト

出版年	テキスト名	出版社
2006	・幼稚園教諭，保育士，小学校教員をめざす人のための ピアノテキスト「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」	ヤマハミュージックメディア
2007	・プリント簡易リズム曲配布（10曲） ・プリント弾き歌い簡易伴奏譜（17曲）配布	
2008	・教育・保育現場で毎日使える コードでかんたん！こどものうた 「マイ・レパートリー」 ・バイエル教則本自習用プリント配布 ・プリント簡易リズム曲集改定版配布	ヤマハミュージックメディア
2009	・どこから始めても OK「なるほど！バイエル1」 すべての人と幼児教育をめざす人のために ・＃・♭だって OK「なるほど！バイエル2」 すべての人と幼児教育をめざす人のために ・動きのためのリズム曲集	サーベル社 サーベル社
2010	・どんな表現も OK「なるほど！大人のブルグミュラー 25」 はじめての人も再チャレンジの人も	学内出版 サーベル社
2012	・動きのためのリズム曲集改訂版	学内出版

2 段譜 17 曲をプリントで配布していた。しかしやはり充実した簡易教材が必要となり、2008 年に「マイ・レパートリー」<sup>9)</sup>が出版され、弾き歌いのテキストとなった。小学校歌唱共通教材 24 曲を含む 80 曲の簡易楽譜により、コードや簡易伴奏で弾ける曲が増え、学生の弾き歌い教材のレパートリー拡大に役立っている。一斉授業でのコード理解を深めるチャンスが増え、難しい箇所をコードに変えたり、またコードをアレンジしたり、簡単な編曲もできるなど応用力としての効果が上がってきている反面、コードの種類が多くて理解が困難な学生もいる。ピアノの経験度に合わせたコード活用法は、初心者や初級者の応用力の伸長にもつながるので、再考すべき重要点であると思う。

実習を経験した学生からは生の情報が得られるので、今後リズム教材同様、実習を念頭に入れた弾き歌い教材の指導の工夫ができる。V 章で詳しく述べるが、今後は採用試験の情報から、弾き歌い教材の指導の工夫をしていく必要がある。

#### 4) チェックシート

学生の自習状況の確認と共に能率よく演奏力を高めるために 2007 年よりチェックシート方式を取っている。これについては、毎年学生の状況を加味しつつ微調整を重ねてきた。表 5 は 2007 年、2009 年、2011 年、2013 年のチェックシートをピックアップして並列し、変化を比較できるようにしたものである。

2007 年は、前述したように「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」のリズム教材と歌唱教材に、それぞれ初心者・初級者のためのプリント教材 10 曲と 17 曲を加えた指導であった。バイエル教則本は 60 番以前の 6 曲を含む指定曲 30 曲で、採用試験に出題される頻度の高い曲を四角で囲み、これらは出来るだけ弾くよう

に指導していた。ブルグミュラー 25 番は指定曲 8 曲、ソナチネアルバム I は 2・3・5・7・13・16 番以外の 1・3 楽章で 8 曲の記入欄があり、ブルグミュラー 25 番とソナチネを出来るだけ数多く弾くことを重視していた。

2009 年はバイエル教則本の 60 番以前を省き、指定曲を少し差し替えているが、四角の囲番号は必修とした。また自由記入欄を 30 増やして、初心者・初級者対策として指定曲にとらわれず個々の学習進度にふさわしい選曲ができるような余裕をもたせ、バイエル習得に力を入れていた。リズム曲と弾き歌いの曲目も自由記入で、学生の実力に合う教材選択を重視していた。

2011 年は、バイエル教則本とブルグミュラー 25 番の記入欄を半分減らして両方とも自由記入に変えた。これは、1 年でソナチネに到達させるため、学生の実情に合わせた教材選択と指導を模索してきた結果、それが年々効果を上げてきたことを示していると言える。リズム曲は自由記入であるが、動きのための曲と動きのイメージの曲の違いを学生に印象付ける表記をした。弾き歌い教材は再び指定曲となり、2 つのテキストを区別するため（歌）（マ）<sup>8)</sup>を記入している。

2013 年は、リズム曲の曲数を減らし、弾き歌い教材数をこれまでで最も多くした。これは弾き歌いの力を付けることに目標を置くことを示している。

小学校歌唱共通教材の中で、保育園や幼稚園でも歌われる 8 曲を加えたのは、実習先や採用試験の実態を踏まえた改良点である。7 年間の試行錯誤を経て、2013 年になってようやくチェックシートが学生の実態と現場の実態を含み、学生がそれぞれに必要な到達目標を達成するために利用しやすい形になってきたと



がら確実に実力をつけていくよう、2007年から進度に応じたノルマを課している。これも学生の実態に合わせて毎年のように調整してきた。表6～8に2007年、2011年、2013年のノルマの変更例を比較できるように並記している。

ノルマは、学生が到達度を確し達成感を味わいながら、更にノルマ以上を目指す意欲を発揮してくれる

表6 2007年度生目標習得数

グループ	教則本など	曲数
すみれ	バイエル	終了
	ブルグミュラー	3
	ソナチネ	1
	リズム曲	16
	弾き歌い	4
つばめ	ブルグミュラー	終了
	ソナチネ	4
	リズム曲	16
	弾き歌い	16～42

表7 2011年度生単位取得ノルマ

スタート	教則本など	曲数
バイエル	バイエル	10
	ブルグミュラー	2
	ソナチネ	1
	リズム曲	4
	弾き歌い	15
ブルグミュラー	ブルグミュラー	3
	ソナチネ	2
	リズム曲	8
	弾き歌い	20
ソナチネ	ソナチネ	3
	リズム曲	12
	弾き歌い	25

表8 2013年度生単位取得ノルマ

スタート	教則本など	曲数
バイエル	バイエル	8
	ブルグミュラー	2
	ソナチネ	1
	リズム曲	4
	弾き歌い	15
ブルグミュラー	ブルグミュラー	3
	ソナチネ	2
	リズム曲	8
	弾き歌い	20
ソナチネ	ソナチネ	3
	リズム曲	12
	弾き歌い	25

よう願うものであるが、採用試験対策として、初心者には1年でソナチネ1曲を弾けるようになるということを要求している。到達する学生がほとんどではあるが、進度を急ぐあまり演奏力を充実させることがままならない点や、学生に常に実力以上の努力を強いることで楽しさや意欲をそがれがちであることが現在も問題である。ノルマに関しても、学生の実力に合わせた妥当な線が定まりつつあるが、V章、VI章で述べる学生と現場の実態をふまえて、初心者・初級者への対策は今後も検討が必要である。

### Ⅲ. 学生の音楽的背景 - 入学時アンケートから -

「器楽・声楽Ⅰ」は、1年生後期から開講されるが、入学時に毎年アンケート調査を行っている。「音楽学習経験に関するアンケート」と題する質問紙で、指導上の参考資料として活用している。

授業の1回目に行うテストでは、レベル別にピアノの経験度に応じた曲を選択するように告知しているが(表3)、実力以下の曲を弾く学生が多い。そのため、アンケート調査は各担当教員が学生のピアノ経験の度合いや、音楽的なバックグラウンドを知るために役立っている。

本章では、2006年度生から2013年度生までのアンケート調査を比較し、学生の音楽的背景がどのように変化しているか傾向を分析する。

#### 1. 高校での音楽の履修

高校での「音楽」の履修者(図1)は、高校3年間での「音楽」履修経験の有無を総合し数値として表し

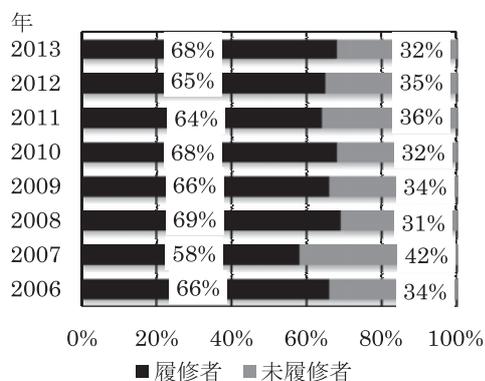


図1 高校での「音楽」の履修

※下記は年度の受講者数を示す。  
(2006年度113名、2007年度129名、2008年度126名、2009年度140名、2010年度147名、2011年度135名、2012年度133名、2013年度145名)

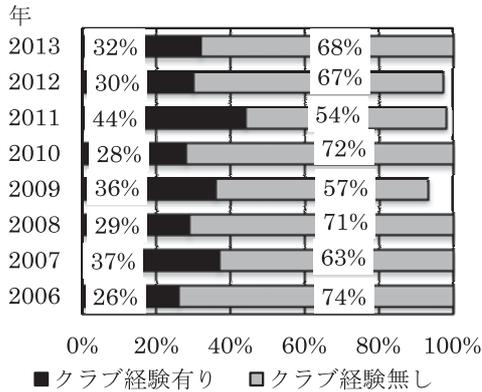


図 2 小学校・中学校・高等学校での音楽系クラブ経験の有無  
 ※下記は年度の受講者数を示す。  
 (2006 年度 113 名, 2007 年度 129 名, 2008 年度 126 名, 2009 年度 140 名, 2010 年度 147 名, 2011 年度 135 名, 2012 年度 133 名, 2013 年度 145 名)

ている。2006 年度は全履修者の 66%, 2007 年度は少し減少し 58%, 2008 年度から 2013 年度までは 64% から 69% と学生全体の 2/3 が高校で音楽を履修していた。履修者の数は、毎年ほぼ変わらぬ傾向だが、各年度 3 割から 4 割の学生は、高校 3 年間学校での「音楽」の授業を全く経験していないことになる。

2. 小学校・中学校・高等学校での音楽系クラブ経験の有無

音楽系クラブに、小・中・高等学校の間に所属した経験の有無を調べた (図 2)。その結果、2006 年度が 26% と 1 番少なく、2011 年度は 44% と半数近い学生が音楽系クラブを経験しているが、その他は平均して全体の約 1/3 が音楽系クラブの経験者である。

3. 高校での音楽系クラブ所属経験の有無

高校での音楽系クラブ所属経験 (図 3) は、2006 年が 26%, 2007 年が 37% と多く、2008 年以降は 2009 年度の 20% と 2011 年度の 24% を除き、全て 14%~19% と減少傾向である。高校で音楽系クラブを経験した人数は、2008 年以降は平均すると学年全体の 18% 程度である。

音楽系クラブの種類 (図 4) は、吹奏楽が圧倒的に多く 2008 年には音楽系所属クラブ経験者の 79% と高い割合を示し、その後 2010 年に 55% と減少するが平均して 60% 台を保っている。その他の音楽系クラブは、吹奏楽に比べると人数はかなり少ない。2006 年から 2013 年まで平均すると、高校での音楽系クラブ所属経験者は学年全体の 21% を占め、中でも特に吹奏楽の人気の高さが伺える。

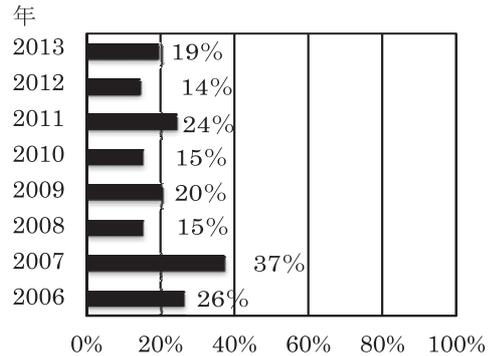


図 3 高校での音楽系クラブ所属経験  
 ※下記は年度の受講者数を示す。  
 (2006 年度 113 名, 2007 年度 129 名, 2008 年度 126 名, 2009 年度 140 名, 2010 年度 147 名, 2011 年度 135 名, 2012 年度 133 名, 2013 年度 145 名)

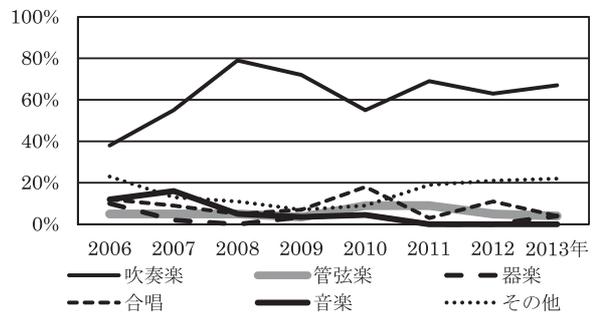


図 4 高校での音楽系クラブの種類  
 ※下記は高校での音楽系所属クラブ経験の人数を示す。(複数回答可)  
 吹奏楽には、マーチングバンドを含む。また、その他には琴・ギター・マンドリン・ハンドベル・和太鼓・軽音楽を含む。  
 (2006 年度 29 名, 2007 年度 48 名, 2008 年度 19 名, 2009 年度 28 名, 2010 年度 22 名, 2011 年度 32 名, 2012 年度 19 名, 2013 年度 27 名)

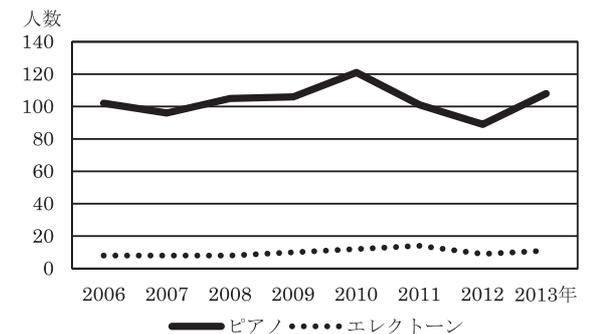


図 5 鍵盤楽器の学習経験  
 ※下記は年度の受講者数を示す。(複数回答可)  
 (2006 年度 113 名, 2007 年度 129 名, 2008 年度 126 名, 2009 年度 140 名, 2010 年度 147 名, 2011 年度 135 名, 2012 年度 133 名, 2013 年度 145 名)

4. 鍵盤楽器の学習経験と学習経験年数

鍵盤楽器の学習経験の中で、ピアノ経験者 (図 5) が圧倒的に多くエレクトーン経験者は全体の約 10% 程度であった。その他の鍵盤楽器としては、オルガンやキーボード、アコーディオンが数名いる程度で、極

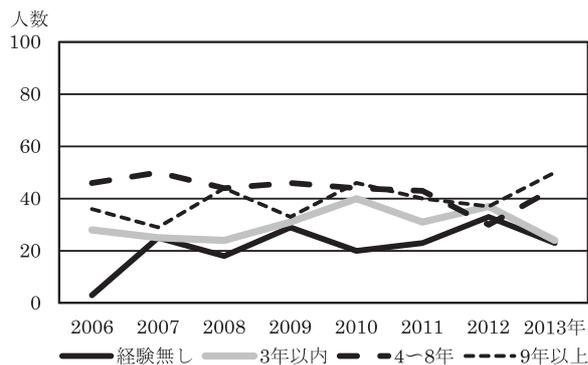


図6 鍵盤楽器学習経験年数

※下記は年度の受講者数を示す。

(2006年度 113名, 2007年度 129名, 2008年度 126名, 2009年度 140名, 2010年度 147名, 2011年度 135名, 2012年度 133名, 2013年度 145名)

めて少なかった。電子ピアノの学習者が数名いたが、ピアノに含めている。

ピアノ経験者は、2010年度が96名、2012年には89名とかなり減少したものの毎年100名を越える学生が大学入学前にピアノを学習していた。その後も2010年と2012年を除いて常に100名を超す人数である。エレクトーン経験者は大きく変化していない。エレクトーンを修得している学生は、はじめピアノとエレクトーンの鍵盤のタッチの違いに困惑するが、数ヶ月でピアノの鍵盤のタッチに順応し抵抗無くレッスンが出来るようになってきている。

鍵盤楽器の学習経験年数(図6)については、2006年と2007年に4~8年経験者が最も多かったのに対し、2012年度には9年以上経験者が4~8年経験者の数を超え、2013年度には9年以上経験者が50名(34%)に達している。逆に学習経験の全く無い学生は、2006年度の3名(2%)から徐々に増加し、2012年度に33名(25%)となり初心者が少しずつ増加傾向であることがわかった。

## 5. 使用教則本

鍵盤楽器経験者の教材として、大学で使用しているバイエル教則本・ブルグミュラー25の練習曲・ソナチネアルバム・ソナタアルバム・その他と5つの項目に分けて調査した(図7)。その結果、全ての年度で傾向は大きな変化はなかったが、バイエルから始まり、ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタへとレッスンを継続してきた人数は、どの学年も全体の約10%程度である。

その他の項目には、ショパンやシューベルトなどが少数含まれているが、教則本以外の曲を自由に選んで弾いていたという答えが多く、どのレベルの教材を用

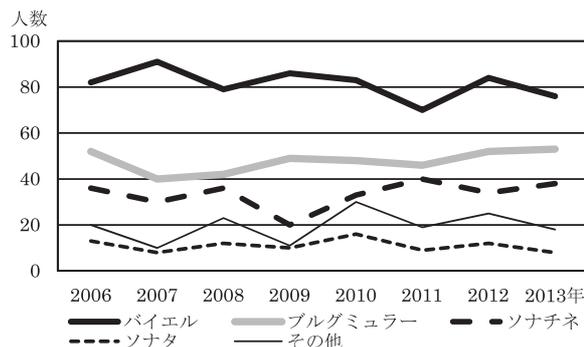


図7 使用教則本

※数値は各教則本を使用した人数を示す。(複数回答可)

(2006年度 113名, 2007年度 129名, 2008年度 126名, 2009年度 140名, 2010年度 147名, 2011年度 135名, 2012年度 133名, 2013年度 145名)

いていたのか判断できないため進捗をはかることが難しい。

## IV. 歌唱教材の既知曲の実態

### 1. 2012年度生へのアンケート分析

2013年の論文「保育士、幼稚園・小学校教諭養成校で用いられている子どもの歌」<sup>9)</sup>は、弾き歌いの指導の現場で、当然知っているだろうと思われる子どもの歌を知らない学生が多いという筆者の体験が研究の動機であった。しかし近畿圏内の養成校で用いられているテキストの分析に終り、学生の既知曲には研究が至らなかった。そこで、今回は現在用いている本学の2冊のテキスト「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」と「マイレパートリー」について、2012年度生を対象に、既知曲および弾き歌いに関する意識についてアンケートをとり、実態調査を行った。

アンケート内容は資料1に示す通りである。前半は2冊のテキスト掲載曲113曲について「大学以前に知っていた子どもの歌」・「大学以後に知った子どもの歌」にそれぞれ○を記入させた。無記入は「知らなかった子どもの歌」として扱った。後半は「子どもの頃によく歌っていた子どもの歌」・「子どもの頃に歌っていた歌は誰に習ったか」・「一番好きな子どもの歌」の3項目について複数回答で自由記入させた。また弾き歌いの意識調査として、「保育者になった時に子どもに伝えたい歌」・「弾き歌いで大事なと思うポイント」を3つ記入させた。最後に卒業後の希望進路について複数回答で記入させた。有効回答は133名中107名であった。

## 1) 大学以前に知っていた子どもの歌

まず、テキスト掲載曲の既知曲の分析結果について述べる。表 9 は「大学以前に知っていた子どもの歌」の回答者数を示している。無地は「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」、グレー地は「マイレパートリー」

表 9 大学以前に知っていた子どもの歌

曲名	人数	曲名	人数
ちょうちょう	107	茶つき	78
ぶんぶんぶん	107	ドキドキドン!一年生	76
ちゅうりっぷ	107	まめまき	72
森のくまさん	107	おつかいありさん	70
どんぐりころころ	107	バスごっこ	70
大きなくりの木の下で	107	ひらいたひらいた	68
ハッピー・パースディ・トゥ・ユー	107	もみじ	67
うみ	107	さくらさくら	67
あわてんぼうのサンタクロース	107	ともだちになるために	62
お正月	107	アイスクリームのうた	59
うれしいひな祭り	107	とけいのうた	58
ハッピー・パースディ・トゥ・ユー	107	まつぼっくり	58
大きな古時計	107	ありがとうさよなら	57
ジングルベル	107	ことりのうた	56
犬のおまわりさん	107	動物園へいこう	55
おもちゃのチャチャチャ	107	シンデレラのスープ	53
さんぽ	107	われは海の子	51
思い出のアルバム	107	あめふりくまのこ	49
一ねんせいになったら	106	おぼろ月夜	49
ぞうさん	106	みんなともだち	48
アイアイ	106	ゆきのこぼろず	46
ドレミの歌	106	かわいいかくれんぼ	44
こぶたぬきつねこ	105	うさぎ	44
ふしぎなポケット	105	こいのぼり	42
夕焼け小焼け	104	おかたづけ	40
さっちゃん	105	かくれんぼ	39
しゃぼんだま	105	にじ	38
お正月	105	とんび	39
ゆき	105	おはながわらった	36
春がきた	105	おはよう	35
勇気 100%	105	ふじ山	35
やぎさんゆうびん	104	せんせいとおともだち	29
にんげっていいな	104	ゆりかごのうた	27
ミッキー・マウス・マーチ	104	きのこ	26
ふるさと	104	コンコンクシャンのうた	25
こいのぼり	103	はをみがきましよう	21
めだかの学校	103	やまびごっこ	21
きよしこの夜	103	ありさんのおはなし	20
かたつむり	103	山のワルツ	20
たきび	101	春の風	18
山の音楽家	100	日のまる	16
お弁当	99	まきばの朝	16
こぎつね	99	いるかはざんぶらこ	14
世界に一つだけの花	99	きみとぼくのラララ	13
虫のこえ	99	おほしさま	13
南の国のハメハメハ大王	98	しずかなクリスマス	11
ゆかいな牧場	98	スキーの歌	9
たなばたさま	96	ふうせん	8
世界中のこどもたちが	96	あくしでこんにちは	8
小さな世界	94	冬げしき	8
赤鼻のトナカイ	93	だから雨ふり	6
おばけなんてないさ	87	そらでえんそくしてみたい	5
もみじ	87	ゆげのあさ	5
子もり歌	85	どこでねるの	4
春の小川	83	越天楽今様	4
そうだったらいいのにな	83	ぶらんこ	3
まっかな秋	78		

※無地は「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」、グレー地は「マイレパートリー」の掲載曲を示す。

の曲を示す。「大学以前に知っていた子どもの歌」として 113 曲全曲が上がっているが、各曲の回答者数は 3~107 名で、学生の既知数には大きな幅がある。この中で全員が知っている歌は 17 曲であり、90% の学生が知っている歌は 41 曲で約 1/3 であった。これは学生の共通既知曲が約 1/3 であることを示していると言える。

## 2) 大学以後に知った子どもの歌

表 10 は、「大学以後に知った子どもの歌」の全回答者数を示す。「大学以後に知った子どもの歌」としては 93 曲が上がっているが、各曲の回答者数は 1~99 名で、上記同様既知数に大きな幅がある。この中には小学校の共通教材 12 曲と定番曲として当然知っている

表 10 大学以後に知った子どもの歌

曲名	人数	曲名	人数
ふうせん	99	ありがとうさよなら	28
だから雨ふり	92	ドキドキドン!一年生	27
いるかはざんぶらこ	91	バスごっこ	26
ありさんのおはなし	88	おかたづけ	26
しずかなクリスマス	86	まっかな秋	23
きのこ	80	ともだちになるために	22
おはながわらった	69	みんなともだち	22
にじ	64	さくらさくら	21
日のまる	62	ひらいたひらいた	20
スキーの歌	56	子もり歌	16
越天楽今様	54	そうだったらいいのにな	14
ゆげのあさ	53	春の小川	13
おほしさま	53	茶つき	13
あめふりくまのこ	52	おばけなんてないさ	12
そらでえんそくしてみたい	51	紅葉	11
ふじ山	51	赤鼻のトナカイ	10
ことりのうた	50	世界中のこどもたちが	10
ゆきのこぼろず	50	小さな世界	9
ぶらんこ	50	たなばたさま	9
やまびごっこ	50	南の国のハメハメハ大王	8
冬げしき	50	虫の声	7
きみとぼくのラララ	49	こぎつね	6
まきばの朝	49	山の音楽家	6
はをみがきましよう	48	世界に一つだけの花	4
山のワルツ	47	おべんどう	4
まつぼっくり	47	ゆかいな牧場	3
シンデレラのスープ	46	こいのぼり	3
とんび	46	まっかな秋	3
とけいのうた	45	たきび	2
コンコンクシャンのうた	45	やぎさんゆうびん	2
ゆりかごのうた	45	めだかの学校	2
あくしでこんにちは	44	しゃぼんだま	2
どこでねるの	44	ゆき	2
春の風	44	きよしこの夜	2
かくれんぼ	44	にんげんっていいな	2
せんせいとおともだち	42	ミッキー・マウス・マーチ	2
アイスクリームのうた	41	ふるさと	2
われは海の子	41	こぶたぬきつねこ	1
うさぎ	40	思い出のアルバム	1
こいのぼり	40	一ねんせいになったら	1
もみじ	40	ぞうさん	1
おはよう	37	アイアイ	1
動物園へいこう	37	夕焼け小焼け	1
かわいいかくれんぼ	35	さっちゃん	1
まめまき	35	勇気 100%	1
おぼろ月夜	33	春が来た	1
おつかいありさん	29		

るだろうと思える子どもの歌が多数含まれているのに驚かされる。上位13曲は学生の約1/2が「大学以後に知ったこどもの歌」である。また学生数の約1/3では41曲が「大学以後に知ったこどもの歌」ということになる。前記同様、大学での歌唱指導とレパトリーの拡大の重要性を感じさせられる。

### 3) 知らなかった子どもの歌

表11は「知らなかった子どもの歌」の回答者数を示す。約1/2の学生が知らなかった歌は5曲、約1/3の学生が知らなかった歌は21曲である。「知らなかった子どもの歌」としては86曲あり、各曲の回答者数は1~59名まで幅がある。知らなかった歌として86曲が上がったことには驚かされる。2冊のテキストは、言わば定番曲を中心に厳選したものだけに、掲載総数の65%の曲を知らない学生がいるということか

表11 知らなかった子どもの歌

曲名	人数	曲名	人数
どこでねるの	59	おつかいありさん	8
あくしでこんにちは	56	おぼけなんてないさ	8
ぶらんこ	55	アイスクリームのうた	7
そらでえんそくしてみたい	52	あめふりくまのこ	6
越天楽今様	50	にじ	6
ゆげのあさ	49	まっかな秋	6
冬げしき	49	茶つみ	6
きみとほくのラララ	46	子もり歌	6
春の風	46	ゆかいな牧場	5
スキーの歌	43	小さな世界	4
おかたづけ	42	とけいのうた	4
おほしさま	42	お弁当	4
まきばの朝	42	ドキドキドン！一年生	4
山のワルツ	40	赤鼻のトナカイ	4
ゆりかごのうた	40	かたつむり	4
はをみがきましよう	39	たきび	3
コンコンクシャンのうた	37	たなばたさま	3
みんなともだち	37	めだかの学校	2
おはよう	36	ふしぎなポケット	2
せんせいとおともだち	36	おはながわらった	2
やまびこごっこ	36	いるかはざんぶらこ	2
日のまる	30	まつぼっくり	2
さくらさくら	29	きよしの夜	2
かわいいかくれんぼ	28	世界に一つだけの花	2
かくれんぼ	26	ドレミの歌	2
こいのぼり	25	にんげっていいな	2
おぼろ月夜	25	ふうせん	1
うさぎ	23	こぶたぬきつねこ	1
ありがとうさよなら	22	山の音楽家	1
とんび	22	やぎさんゆうびん	1
ともだちになるために	21	こいぼり	1
ふじ山	21	夕焼け小焼け	1
ひらいたひらいた	19	さっちゃん	1
もみじ	19	こりのうた	1
われは海の子	15	こぎつね	1
春の小川	11	もみじ	1
バスごっこ	11	きのこ	1
ゆきのこぼろず	11	お正月	1
そうだったらいいのにな	10	世界中のこどもたちが	1
だから雨ふり	10	ミッキーマウスマーチ	1
しずかなクリスマス	10	勇気100%	1
動物園へいこう	10	春が来た	1
シンデレラのスープ	9	ふるさと	1

ら、2012年度生の既知曲は予想以上に少ないことが分かる。ここでもまた大学での歌唱指導の重要性を感じさせられる。

### 2. 子どもの頃によく歌っていた歌

「子どもの頃によく歌っていた歌」の回答曲は、全部で132曲と多岐にわたる。表12に示す「子どもの頃によく歌っていた歌」の上位10曲中第1位は「さんぽ」で、107名中20名であった。

データの中で一番多いのは、1名のみ回答の84曲であった。2~3名の回答は26曲であった。ここから見えるのは個人的嗜好の多様さである。

### 3. 子どもの頃にうたった歌は誰に習ったか

表13に示すように、「子どもの頃にうたった歌は誰に習ったか」は1位がテレビやテレビ番組のおかあさんといっしょの51名である。2位が母親・父親の49名、3位が幼稚園36名で、歌を親よりもテレビを通じて覚えたというデータは時代性を表している。またCD・カセット・ビデオから覚えたという回答も複数ある。

### 4. 一番好きな子どもの歌

「一番好きな子どもの歌」の回答曲は全部で33曲であった。表14に示す「一番好きな子どもの歌」の上位10曲中、一番好きな歌の第1位は「にじ」、2位は「思い出のアルバム」、3位が「アイスクリームの歌」「世界中の子どもたちが」である。

データの中で一番多いのが1名のみ回答の18曲であり、ここから見えるのもやはり個人的嗜好の多様さである。また107名中の回答者が1/3であったのは、

表12 子どもの頃によく歌っていた歌

曲名	人数	曲名	人数
さんぽ	20	ともだちになるために	8
ちゅうりっぷ	12	にんげんっていいな	7
思い出のアルバム	11	世界中の子どもたちが	7
ドレミの歌	10	にじ	7
勇気100%	9	ぞうさん	6

表13 子どもの頃にうたった歌は誰に習ったか

習った人等	人数	習った人等	人数
テレビ・おかあさんといっしょ	51	CD	4
母親・父親	49	習い場	3
幼稚園	36	カセット	3
保育園	28	ビデオ	3
先生	23	合唱	1
小学校	17	学童の先生	1
ピアノの先生	9	姉	1
エレクトーンの先生	6	町内放送	1
祖母・祖父	5		

表 14 一番好きな子どもの歌

曲名	人数	曲名	人数
にじ	37	人間っていいな	4
思い出のアルバム	10	ともだちになるために	3
アイスクリームの歌	6	ピリープ	3
世界中の子どもたちが	6	あめふりくまの子	3
さんぽ	5	勇気 100%	3

“一番好きな歌” というという質問にすぐに答えが出てこないという事情もあるように思う。

## 5. 保育者になった時に子どもたちに伝えたい歌

「保育者になった時に子どもたちに伝えたい歌」の回答曲は全部で 98 曲であった。表 15 に示す上位 10 曲中、「保育者になった時に子どもたちに伝えたい歌」の 1 位は「にじ」39 名、2 位は「思い出のアルバム」27 名、3 位は「世界中の子どもたちが」14 名である。

データの中で 1 番多いのは、1 名のみ回答の 56 曲で、2~3 名の回答は 20 曲であった。ここでも、学生が「保育者になった時に子どもたちに伝えたい歌」も多様であることが分かる。

表 12, 14 と表 15 を比べて見ると、三つの設問に共通して人気が高いのは、「にじ」「思い出のアルバム」「さんぽ」「世界中の子どもたちが」「ともだちになるために」の 5 曲である。特に「にじ」は「子どもの頃によく歌っていた歌」であり、現時点で「一番好きな歌」であり、「保育者になった時に子どもたちに伝えたい歌」としてトップであり、しかも学生の 60% が大学以後に出会った曲であるのは特徴的である。「にじ」「世界中の子どもたちが」「ともだちになるために」の 3 曲は新沢としひこ・中川ひろたかコンビの作品で、比較的新しい歌が好まれているのが分かる。

## 6. 弾き歌いの大事なポイント

表 16 に見るように、1 位が「大きな声で歌う」の 59 名、2 位は「子どもの顔を見ながら歌う」57 名、3 位は「間違っても弾き直さない」52 名となっている。約半数の学生がこの 3 点を弾き歌いの大事なポイント

表 15 保育者になった時に子どもたちに伝えたい歌

曲名	人数	曲名	人数
にじ	39	あめふりくまの子	10
思い出のアルバム	27	アイスクリームの歌	8
世界中の子どもたちが	14	シンデレラのスープ	8
ともだちになるために	12	ドキドキドン！1年生	8
さんぽ	12	大きな古時計	6

表 16 弾き歌いの大事なポイント

ポイント	人数	ポイント	人数
大きな声で歌う	59	リズムを大切に	6
子どもの顔を見ながら歌う	57	ピアノが弾ける	5
間違っても弾き直さない	52	率先して歌う	4
笑顔	32	コードで弾ける	3
子どもが歌いやすい伴奏	16	サンハイ！をリズムよく	3
楽しんで弾き歌う	11	イメージ豊かに歌う	3

として自覚している。この後に「笑顔」「子どもが歌いやすい伴奏」と続く。ただ、「ピアノが弾ける」というやや解釈が難しい答えが上位にあり、保育にふさわしいピアノの弾き方が出来る力が重要であるとする反面、自分の力にはあまり自信がないという思いも垣間見える。データには 1~2 名のみ回答が 15 項目もあり、ポイントを三つに絞りきれない学生の意識の多様性が感じられる。

## V. 2012 年度採用試験の音楽実技の実態

2012 年度に行われた、保育園・幼稚園・施設の採用試験の内容を調べた。

筆記と面接はほとんどが必修のため、その他の内容を「音楽関係」と「その他の表現」の 2 つに分類した(図 8~10)。

音楽関係はピアノと弾き歌いの実技試験を含め、「その他の表現」として、保育実習・絵本の読み聞かせ・お話の創作・手遊び・造形・他をひとまとめにした。

「その他の表現」の他というのは、特技披露やグループ討議、運動能力テストなど、内容は多岐に渡っていた。中には、実技という全く内容のわからないものも含まれていた。音楽関係とその他の表現分野の割合

2012 年度・採用試験における音楽実技の実態

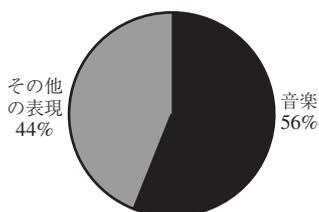


図 8 保育園  
(音楽：533 件、その他の表現：425 件)

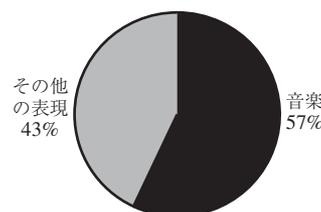


図 9 幼稚園  
(音楽：333 件、その他の表現：248 件)

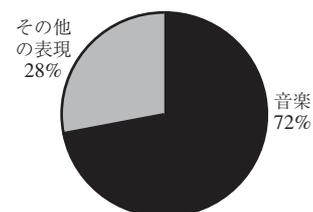


図 10 施設  
(音楽：44 件、その他の表現：17 件)

は、保育園・幼稚園・施設の全てにおいて音楽関係が50%以上の割合を示している、音楽を重視しているところが多いことがわかった。また、音楽関係の中でピアノと弾き歌いの項目に分けると（図11～13）、圧倒的にピアノの比重が大きいことがわかった。

保育現場や教育現場において、ピアノを弾くことがいかに重要視されているかを、あらためて知らされた。また、弾き歌いも約30%の割合であることから、弾き歌いの重要性が明らかになった。ピアノは音楽に欠かせない道具であり、弾き歌いを円滑に行なうためにもピアノを弾く能力が基礎となり、その能力を大学で身につけることが重要である。

### 1. ピアノの教則本課題曲と自由曲

2012年度の採用試験におけるピアノの課題曲と自由曲を調べたところ（図14～16）、教則本の課題曲と自由曲の割合は保育園・幼稚園・施設の全てにおいて、ほぼ同じ割合であった。

課題曲の内容は、表17と表18に示している。求人

票に課題曲と書いてあるのみで、曲の指定をしていない園もある。それは応募者に直接知らせるという意味である。保育園の課題曲はバイエルが中心で27件、ブルグミュラーを指定している園が6件、その他が4件であった。その他には最近練習した曲の中からという内容や、教則本で弾ける範囲でという内容の少し緩やかな課題が含まれている。ソナチネやソナタの記載は無かった。幼稚園では、バイエルを指定している園が5件、ブルグミュラーとソナチネが2件、ソナタが1件とその他が1件であった。その他は、最近練習した練習曲の中からと記載されていた。また、幼稚園の求人票に採用条件の雇用形態という欄がある園があり（表19）、そこには次のような内容が記載してあった。「これまではソナチネ程度としていたが、昨今の学生の状況を鑑み『楽器に親しんでいること』と自由曲に変更し、難易度を下げている幼稚園と保育園が2カ所ずつあった。これは、同じ系列の園であった。また、ソナチネ程度としている幼稚園の中には「自信が無い方でも本人の努力が見込まれる方」と書き、就職

2012年度・採用試験におけるピアノと弾き歌いの割合

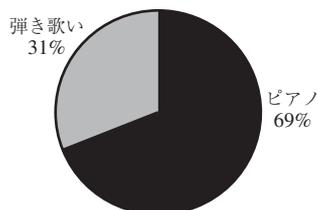


図11 保育園  
(ピアノ：370件、弾き歌い：163件)

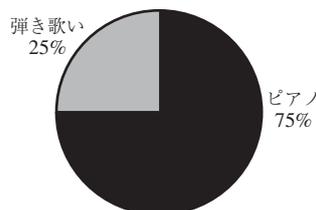


図12 幼稚園  
(ピアノ：250件、弾き歌い：83件)

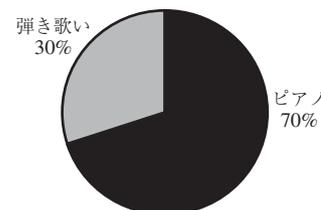


図13 施設  
(ピアノ：31件、弾き歌い：13件)

2012年度・採用試験におけるピアノと弾き歌いの課題曲と自由曲の割合

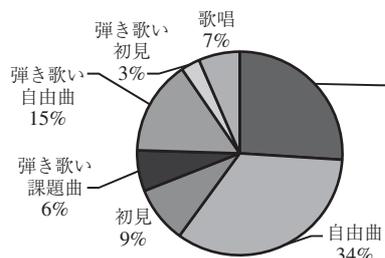


図14 保育園

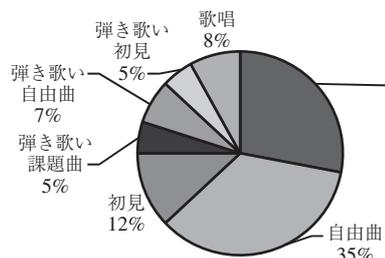


図15 幼稚園

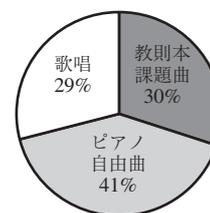


図16 施設

2012年度 採用試験のピアノの課題曲内容

表17 保育園（求人数：562件）

内容	件数
バイエル	27
ブルグミュラー	6
その他	4

表18 幼稚園（求人数：262件）

内容	件数
バイエル	5
ブルグミュラーとソナチネ	2
ソナタ	1
その他	1

表19 幼稚園の採用試験の雇用形態欄の特記事項

ピアノのレベル	件数
バイエル	3
ブルグミュラー	3
ソナチネ	8
その他	6

後は希望により外部講師のレッスンを受けられると記載していたところが 2カ所あった。

保育園が求めるピアノのレベルと、幼稚園が求めるピアノのレベルでは、幼稚園の方が少しレベルが高い。これは、保育現場と教育現場の違いで、幼稚園では普段の活動の中で、ピアノを使用する機会が多いためだと考える。表 17 と 18 に示されている件数は、求人数の中のごく 1 部である。その他の試験曲の情報が把握できていないので、今後調査を重ねていく必要がある。

2. 弾き歌いの課題曲と自由曲

弾き歌いの課題曲と自由曲の割合は (図 14~16)、保育園・幼稚園ともにほぼ同じである。弾き歌いの課題曲は千差万別であるが、季節の歌や「おばけなんてないさ」「おもちゃのチャチャチャ」などよく知られている子どもの歌をとりあげている保育園や幼稚園がある。本学科では、自由曲については秋の歌や元気な

曲を中心にアドバイスをを行っているが、学生の実力に見合う曲を推奨している。他に弾き歌いの初見視唱奏の試験を行うところが増えている。弾き歌いの初見曲は、採用試験の時期が秋のため「どんぐりころころ」や「とんぼのめがね」などの曲が出題される傾向がある。歌唱は、近年歌唱指導を取り上げている園が増えてきている。採用試験においては、伴奏楽器は園に設置されているピアノや電子ピアノを使用するが、ギターやオルガンなど得意な楽器を使用しても良いと記載されている園もある。

VI. 求人と就職の実態

2012 年度の求人数を調べてみると (図 17)、保育園が 562 件、幼稚園が 262 件、施設が 84 件、小学校が 4 件であった。これらは全て私立である。保育園が圧倒的に求人数が多く、全体の 61.5% であり保育士不足が顕著に表れている。幼稚園は 29%、施設が 9%、小学校はわずか 0.5% であった。小学校は私立が少ないため、小学校を希望する学生の多くは公立を受験していて私立の求人は 4 件と非常に少ない。

1. 求人の実態

地域別に見ていくと (図 18~20)、保育園・幼稚園・施設ともに、大阪と兵庫の求人数が非常に多い。このことは、大学が兵庫県神戸市に位置していることが関係していると思われる。大阪は市内の各区や豊

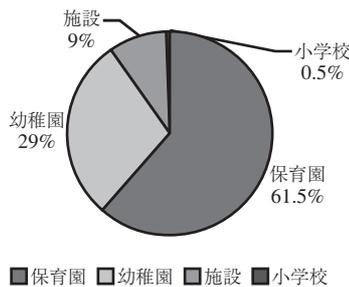


図 17 2012 年度・求人数 (保育園：562 件、幼稚園：262 件、施設：84 件、小学校：4 件)

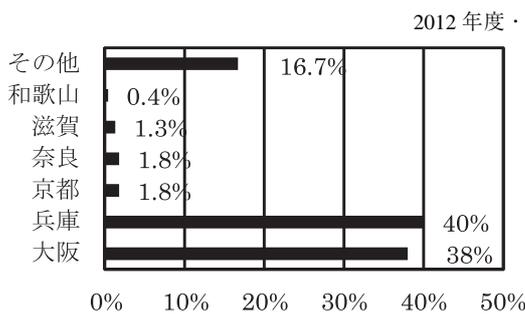


図 18 保育園求人数：562 件

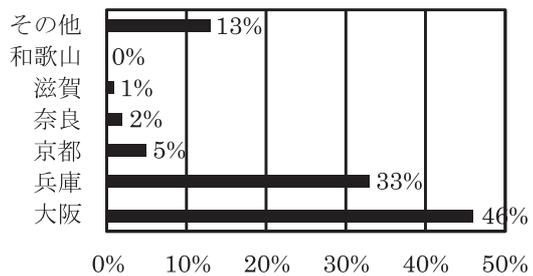


図 19 幼稚園求人数：262 件

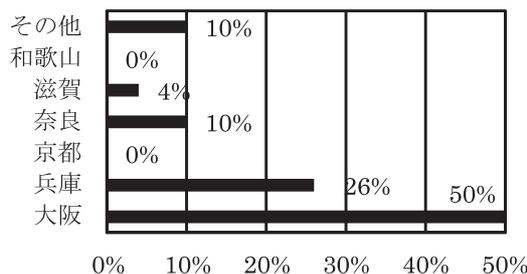


図 20 施設求人数：84 件

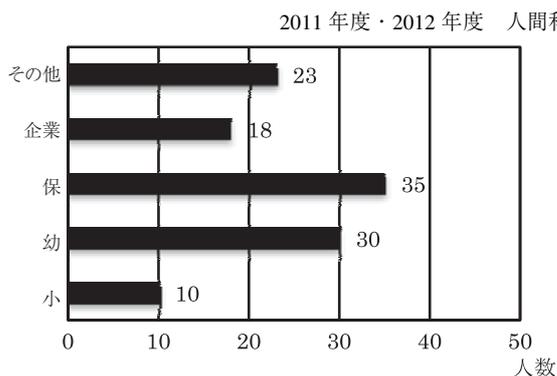


図 21 2011年度 卒業生数：116名

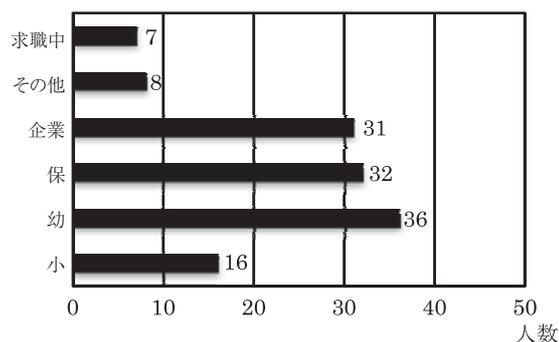


図 22 2012年度 卒業生数：130名

※データは、総合子ども学科西尾新教授がまとめられたものを使用。

能・泉北・泉南・河内地区と範囲が広く、兵庫も神戸市内の各区や明石・姫路などの播磨地区・伊丹・川西など、広範囲から求人がきている。その他の地域としては、中国・四国・東海・北陸地方などがあった。小学校は、4件だったので図に表していないが、大阪が1件で兵庫が1件、京都が1件とその他が1件の求人数である。

## 2. 就職の実態

2011年度と2012年度の就職状況を調べてみると(図21と図22)、2011年度は保育園が35%で1番多く、2番目が幼稚園で30%、続いてその他の順番になっていた。その他とは、就職以外の意味で詳細は把握できていない。しかし、2012年度は幼稚園が1番多く36%となり、保育園が32%で2011年度と順序が逆転している。また、企業への就職者が2012年度に31%となり、2011年度より13%増加していることが大きな特徴と言える。就職率は、2011年度が就職希望者の100%で、2012年度が就職希望者の94.3%と、高い就職率となっている。2011年度には、公立保育所に5名、公立幼稚園に2名、公立小学校に3名合格し、2012年には公立保育所に2名、公立小学校に11名合格している。就職状況の全体を見てみると、保育園・幼稚園・小学校への就職率は高く、2011年度が全体の75%で2012年度が84%と上昇していることから、学生の保育や教育現場へ就職したいという目的意識が、高くなってきていることは事実である。

## Ⅶ. 今後の指導課題

これまで7年間に指導方法の改良を繰り返し、2013年にはようやく「器楽・声楽」の指導法が確立しつつある。チェックシートとノルマの設定は効果的で、学

生の自学自習の意識も高くなってきており、これらは例年100%に近い達成度を実現している。

しかし、今回「入学時アンケート」「既知曲アンケート」「就職試験の音楽関係課題」「卒業後の進路希望」「求人状況」「就職状況」を調査・集計した結果、ピアノの初心者に1年間でソナチネ到達の進度を求めるという本学科の基本的な指導の方向性に疑問を持つに至った。

「器楽・声楽Ⅰ・Ⅱ」は音楽的基礎能力を養う目的で1年間の必修授業として設定しているが、音楽的基礎能力の習得は前稿でも述べたとおり、「音楽の楽しさを伝えられる学生」の育成を大前提としており、期間の短さとも相まって、その達成が容易ではない。「音楽的基礎能力」にどの程度の何を求めるかについては教員・講師間で何度も話し合われているが、現状、最低ソナチネ1曲のノルマを継続している。今回整理した調査結果では、近年採用試験の教則本のピアノ課題でソナチネは少なく、また、音楽関係の採用試験課題のうち教則本自体が1/4程度で、教則本以外に弾き歌いや歌唱、初見などが多くあげられている。近年、他の受験生を園児とみだてての歌唱指導の課題を経験した学生もおり、保育園・幼稚園では、ピアノ演奏能力の高さと同時に、あるいはピアノ演奏能力の高さよりも、子どもたちを歌う楽しさに導くことができる表現力や即興力を重視してきていると考えられる。

図14から図16に見るように、採用試験での弾き歌いの試験は、音楽関係の試験内容の1/3を占めている。これに対して、学生を対象とした、子どもの歌の既知曲の調査では、共通既知曲が2冊のテキストの掲載総曲数113曲中、1/3程度であるという結果であった。これらのことから、今後の「器楽・声楽」の目標として、弾き歌いの能力および弾き歌い曲のレパートリーの伸長を課題としたいと考える。保育士・教員養

成課程におけるピアノ演奏の技術は、難曲を弾きこなす力というよりも、弾き歌いのベースとなる基礎的な音楽技術と感性を充実させるためのものであろう。現場では柔軟な適応力や応用力、即戦力が求められており、このような力を発揮できる学生を育てるために、さらにより良い方向性を模索していきたい。

#### 注

- 1) ソナチネアルバムⅠの指導を基本としているが、学生の経験度によってはソナチネアルバムⅡを用いることもある。
- 2) ソナタはソナチネアルバムⅠに含まれるソナタの指導を基本としているが、学生の経験度によってはこれ以外のソナタを用いることもある。
- 3) 「動きのためのリズム曲」は、現場で活用されることを視野に入れ、一般に良く知られている 1~2 ページの曲を、子どもを動かすための実践教材として弾きやすく編曲している。このテキストにより、初心者も実践できる持ち曲を可能な限り広げてくれることを狙っている。
- 4) どこからはじめても OK 「なるほど! バイエル 1」・#・♭だって OK 「なるほど! バイエル 2」は、バイエル教則本掲載の 106 曲中 45 曲を解析し、弾きやすい順に並び換え、短期間で能率的に学べるように構成したものである。それぞれ 25 曲・20 曲について楽譜の知識・読譜法・練習のコツやヒントを各曲見開きのページにやさしくまとめて、総合的に学びながら自習力が付くことを目指している。
- 5) どんな表現も OK 「なるほど! 大人のブルグミュラー 25」は、「なるほど! バイエル 1・2」と同じコンセプトで構成している。「なるほど! バイエル 1・2」で身につけた楽譜の知識・読譜法・読譜力を強化しながら、豊かな表現をするための練習のコツやヒントを各曲見開きのページにやさしくまとめている。総合的に学びながら演奏力とともに表現力が付くことを目指している。
- 6) 幼稚園教諭、保育士、小学校教員をめざす人のためのピアノテキスト「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」は、Ⅰコード学習から弾き歌い(コード学習のための楽典と弾き歌い曲)、Ⅱ総合的な実践に向けて(動きの

ためのリズム曲と変奏と応用~生活発表会のために~)、Ⅲ保育士試験・採用試験のために、の 3 部で構成されているテキストで、弾き歌い曲もリズム曲もオリジナル楽譜である。

- 7) コードでかんたん! こどものうた「マイ・レパートリー」は全 80 曲簡易伴奏楽譜で、Ⅰ節コード学習、Ⅱ節コードでも弾けるこどもの歌・小学校歌唱共通教材に分かれている。
- 8) (歌) は「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」、(マ) は「マイレパートリー」のテキストであることを示す。
- 9) 2008 年(平成 20 年)甲南女子大学研究紀要人間科学編第 45 号論文「保育士、幼稚園・小学校教諭養成課程におけるピアノ指導」坂井康子・山崎和子・衣川久美子・篠原真紀子・古庵晶子

#### 参考文献

- 衣川久美子・古庵晶子・篠原真紀子・山崎和子(2009)『どこからはじめても OK なるほど! バイエル 1 すべての人と幼児教育をめざす人のために』サーベル社
- 衣川久美子・古庵晶子・篠原真紀子・山崎和子(2009)『#・♭だって OK なるほど! バイエル 2 すべての人と幼児教育をめざす人のために』サーベル社
- 衣川久美子・古庵晶子・山崎和子(2012)『どんな表現も OK なるほど! 大人のブルグミュラー 25 初めての人も再チャレンジの人も』サーベル社
- 衣川久美子・山崎和子・坂井康子(2013)「保育士、幼稚園・小学校教諭養成校で用いられているこどもの歌ー近畿圏内の 1989 年から 2012 年に出版されたテキストの分析その 1ー」甲南女子大学研究紀要人間科学部第 49 号
- 坂井康子・岡林典子・南夏世・山崎和子(2006)『幼稚園教諭、保育士、小学校教員をめざす人のためのピアノテキストー歌おう♪弾こう♪こどもとともに』ヤマハミュージックメディア
- 坂井康子・岡林典子・南夏世・佐野仁美(2008)『コードでかんたん! こどものうたマイレパートリー』ヤマハミュージックメディア
- 坂井康子・山崎和子・衣川久美子・篠原真紀子・古庵晶子(2008)「保育士・幼稚園・小学校教諭養成過程におけるピアノ指導」甲南女子大学研究紀要人間科学部第 45 号

資料1 子どもの歌に関するアンケート

子どもの歌に関するアンケート			
<p>「器楽・声楽」の授業をより良いものにするために、アンケートに協力して下さい。                  あなたは現在使用している2冊のテキストの歌を、どのくらい知っていますか？以下の質問に答えて下さい。大学に入学するまでに知っていた歌、大学に入ってから知った歌それぞれに○をつけて下さい（今もよく知らない歌には○なし）</p>			
<p>①「歌おう弾こう」ことごとともにより</p>			
曲名	歌いだし	大学以前に知っていた	大学以後に知った
ちようちよう	ちようちようちようちよう菜の葉に		
ぶんぶんぶん	ぶんぶんぶん蜂が飛ぶ		
ちゅうりっぷ	歌いだ歌いだチューリップの花が		
森のくまさん	ある日森の中くまさんに出会った		
どんぐりころころ	どんぐりころころどんぐりこ		
大きな木の下で	大きな木の下であなたと私		
ふうせん	黄色い風船ルルルそっと風にあげたら		
小さな世界	世界中でだれだって笑いあり涙あり		
こぶたぬきつねこ	こぶたぬきつねこ		
山の音楽家	わたしゃ音楽家のこりす		
やきさんゆうびん	白やきさんからお手紙届いた		
ハッピー・パースティ・トゥ・ユー	ハッピー・パースティ・トゥ・ユー		
春の小川	春の小川はさらさら行くよ		
こいのぼり	屋根より高いこいのぼり		
どけいのうた	コチコチカチカチお時計さん		
たなばたさま	笹の葉さらさら軒端に揺れる		
うみ	海は広いな大きいな		
あわてんぼうのサンタクロース	あわてんぼうのサンタクロース		
お正月	もういくつ寝るとお正月		
うれいひな祭り	釘りをつけましょぼんぼりに		
鬼い出のアルバム	いつのこたが鬼い出してごらん		
一ねんせいになったら	一年生になったら一年生になったら		
おつかいありさん	あんまり急いでコソコソ		
ぞうさん	ぞうさんぞうさんお鼻が長いね		
アイアイ	アイアイアイおさるさんだよ		
あめふりまごこ	お山に雨が降りました		
かわいいかくれんぼ	ひよこがねお庭でヨチヨチかくれんぼ		
コンコンクシヤンのうた	りすさんがマスキュラ		
山のワルツ	すてきな山の幼稚園9時になると		
めだかの学校	めだかの学校は川の中		
バスごっこ	大型バスに乗ってます		
そうだつたらいいのにな	そうだつたらいいのにな		
おぼけなんてないさ	おぼけなんてないさおぼけなんて嘘さ		
そでえんそくしてみたい	青いお空はほくらんぼ		
ふしぎなポケット	ポケットの中にはスケッチが1つ		
夕焼け小焼け	夕焼け小焼けで日が暮れて		
さっちゃん	サっちゃんほねさちこって言うんだ		

②「マイ・レパートリー」より			
曲名	歌いだし	大学以前に知っていた	大学以後に知った
おはよう	先生おはようみなさんおはよう		
お弁当	おべんとおべんと嬉しいな		
はみがきまじょう	歯を磨きまじょうジュッジュッジュッ		
せんせいとおともだち	先生とお友だち先生とお友だち		
おかたづけ	お片づけお片づけ		
ハッピー・パースティ・トゥ・ユー	ハッピー・パースティ・トゥ・ユー		
あくしてごんには	テクテクテク歩いて来て		
どこでねるの	どこで寝るのぞうさん		
ともだちになるために	友だちになるために人は出会うんだよ		
きみとぼくのラララ	きみとなんて言わなくても		
みんなともだち	みんな友だちずっとずっと友だち		
ありがとさよなら	ありがとさよなら友だち		
ドキドキドン！一年生	挨拶いだら一年生		
おはながわらった	お花が笑ったお花が笑った		
ありさんのおはなし	ありさんのお話し聞いたかね		
こどりのうた	小鳥はととも歌がすき		
春の風	ルルルルルル ルルルルルル		
大きな古時計	大きなのっぽの古時計		
だから雨ふり	きのう降のかえるがね		
にじ	虹のシャベルが一日ぬれて		
しゃぼんだま	シャボン玉飛んだ		
おほしさま	お星様ばかりお話しして		
南の国のハメハメハ大王	南の島の大王はその名も偉大なハメハメハ		
アイスクリームのうた	おとぎ話の王子でも昔はとても食べられない		
いろはざんぷらこ	いろははザンブコ		
こぎつね	こぎつねコンコン山の中		
もみじ	赤い赤いもみじの葉		
まつぼっくり	まつぼっくりがあったとき		
ききのこ	きききのききききのこ		
まっかな秋	まっかなまっかな秋		
たきび	団扇の団扇の曲がり角		
ゆげのあさ	おはようおはようおはよう		
ゆき	雪やコンコンあらやコンコン		
ゆきのごぼうす	雪のごぼうす雪のごぼうす		
赤鼻のトナカイ	まっかなお鼻のトナカイさんは		
しずかなクリスマス	羊飼いはひつじと眠る		
きまじこの夜	静しこの夜星は光り		
ジングルベル	ジングルベルジングルベル鈴が鳴る		
お正月	もういくつ寝るとお正月		
まめまき	鬼は外福は内		
犬のおまわりさん	迷子の迷子の子ねちゃん		
おちちゃん	おちちゃんおちちゃん		

さんぽ	歩こう歩こう私は元気		
ソンドレラのスープ	チャチャチャカぼらちゃのスープ		
ゆかいな牧場	一頭さんの牧場でアイアイアイ		
世界中のこどもたちが	世界中の子供たちが		
世界に一つだけの花	花屋の店先に並んだ		
動物園へいこう	動物園へ行こうよみんなで行こうよ		
トレミの歌	ドはドーナツのド		
にんげっていいな	くまの子見ていたかくれんぼ		
ぶらんこ	ブランコ揺れてお空が揺れる		
やまびこごっこ	山彦さんまねっこさん		
ミッキー・マウス・マーチ	僕らのクラブのリーダーは		
勇氣100%	がっかりしてメロメロして		
ゆりかごのうた	揺り籠の歌をカナリアが歌うよ		
かたつむり	でんでんむしむしかたつむり		
目のまる	白地に赤く目の丸染めて		
ひらいたひらいた	開いた開いたれんげの花が開いた		
かくれんぼ	かくれんぼするものぞうといで		
春がきた	春が来た春が来たどこにきた		
虫のこえ	あれ松虫が鳴っている		
うさぎ	うさぎうさぎ何で寝てる		
茶つき	夏も近づくと十八夜		
ふじ山	顔を雲の上に出し		
さくらさくら	桜舞う空の空は		
とんび	飛べ飛べとんび空高く		
まきはの朝	ただ一面に立ち込めた		
もみじ	秋の夕日に照る山もみじ		
こいのぼり	雲の波と雲の波		
子もり歌	ねんねころりよおころりよ		
スキーの歌	輝く日の影はゆる野山		
冬げしき	狭霧消ゆる凍江の		
越冬今様	春の芽生るあけぼのに		
おぼろ月夜	菜の花畑に入り日濡れ		
ふるさと	うさぎ追いつかの山		
われは海の子	我は海の子白波の		

- 子どもの頃によく歌っていた歌は何ですか？その歌は誰に習いましたか？複数ある場合は、全部書いて下さい。2冊のテキスト以外の曲でも結構です。<例> むすんでひらいて（母）>
  - ( )
  - ( )
  - ( )
  - ( )
  - ( )
- 一番好きな子どもの歌は何ですか？2冊のテキスト以外の曲でも結構です。
  - ( )
- あなたが保育者になった時に、子どもたちに伝えたい歌は何ですか？複数ある場合は全部書いて下さい。
  - ( )
  - ( )
  - ( )
  - ( )
  - ( )
- あなたが、弾き歌いで大事だと思ふポイントを3つあげて下さい。
  - ( )
  - ( )
  - ( )
- 卒業後は、どのような進路を希望しますか？下記に○をつけて下さい。複数回答も可能です。
  - 保育園 ( ) 幼稚園 ( ) 小学校 ( ) 施設など ( ) 子供関連企業 ( )
  - 大学院進学 ( ) 考へ中 ( ) 家事手伝い等 ( )